

表12 経年指標 T_i

項目		構造ひび割れ・変形			変質・老朽化		
程度		a	b	c	a	b	c
部位	範囲	1. 不同沈下に関するひび割れ	1. 2次部材に支障をきたしているスラブ、梁の変形	1. a, bには該当しない軽微な構造ひび割れ	1. 鉄筋さびによるコンクリートの膨張ひび割れ	1. 雨水、漏水による鉄筋さびの溶け出し	1. 雨水・漏水、化学薬品等によるコンクリートの著しい汚れまたはしみ
		2. 誰でも肉眼で認められる梁、壁、柱のせん断ひび割れ、または斜めひび割れ	2. 離れると肉眼で認められる梁、壁、柱のせん断ひび割れ、または斜めひび割れ	2. a, bには該当しないスラブ、梁のたわみ	2. 鉄筋の腐食	2. コンクリートの鉄筋位置までの中性化または同等の材令	2. 仕上げ材の軽微な剥落または老朽化
		3. 離れても肉眼で認められる梁、柱の曲げひび割れ、または垂直ひび割れ	3. 離れても肉眼で認められる梁、柱の曲げひび割れ、または垂直ひび割れ		3. 火災によるコンクリートのはだわれ	3. 仕上げ材の著しい剥落	
					4. 化学薬品等によるコンクリートの変質		
I 床 (含, 小梁)	①総床数の1/3以上	0.017	0.005	0.001	0.017	0.005	0.001
	②同上1/3～1/9	0.006	0.002	0	0.006	0.002	0
	③同上1/9未満	0.002	0.001	0	0.002	0.001	0
	④同上注) 0	0	0	0	0	0	0
II 大梁	①建物1方向につき総部材数の1/3以上	0.05	0.015	0.004	0.05	0.015	0.004
	②同上1/3～1/9	0.017	0.005	0.001	0.017	0.005	0.001
	③同上1/9未満	0.006	0.002	0	0.006	0.002	0
	④同上注) 0	0	0	0	0	0	0
III 壁・ 柱	①総部材数の1/3以上	0.15	0.045	0.011	0.15	0.045	0.011
	②同上1/3～1/9	0.05	0.015	0.004	0.05	0.015	0.004
	③同上1/9未満	0.017	0.005	0.001	0.017	0.005	0.001
	④同上注) 0	0	0	0	0	0	0
減点数	小計	0.000	0.020	0.000	0.023	0.007	0.001
集計欄	合計	$p_1 = 0.020$			$p_2 = 0.031$		
		2F階 経年指標 $T_i = (1 - p_1) \times (1 - p_2) =$			0.950		

- [注] 1) ④は面積・総部材が0のもので、建物の保全状態がきわめて良好と認められるもの
2) 選択した個所を○や網掛け表示などでわかるようにする